# 委託事業実施内容報告書

# 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

# 【日本語指導者養成】

受託団体名　浜松学院大学

## 1 事業の趣旨・目的

浜松市の外国人の子どもの高校進学率は約 70～80%だが、中学中退やブラジル人学校の子どもも含めると約 50%と推定されている。高校に進学できても、その先の進路が見えず、学習意欲が向上しない、中退が多いといった課題があり、日常会話に問題がなくても、学習言語や学力の面で困難がある人も少なくない。外国人高校生が高校で学習を継続し、卒業、さらには大学進学も視野に入れた支援が必要である。

子どもたちにはどのようなサポートが必要なのか、進路や学習への動機づけはどのようにしたらよいのか、静岡県、愛知県、神奈川県における実践事例に学び、学校と地域の連携も含めて、日本語・学習支援を実践するための人材のネットワークづくりをはかる。

## 2 企画委員会の開催について

【概要】

| 開催日時 | 開催場所 | 出席者 | 議題 | 会議の概要 |
|---|---|---|---|---|
| 5月21日 | 浜松学院大学 会議室 | 緩利誠、米勢治子、松本一子、菰田康子、山口権治、小林芽里 | 1. 委員顔合わせ<br>2. 事業内容について<br>3. 今後のスケジュール | 自己紹介、事業の趣旨説明、企画内容、講師依頼、受講生募集、広報についての報告を行い、意見交換を行った。 |
| 9月6日 | 浜松学院大学 会議室 | 緩利誠、米勢治子、松本一子、菰田康子、山口権治、小林芽里 | 1. 事業企画の進捗報告<br>2. 講座の内容について<br>3. 今後のスケジュール<br>4. 関連情報など | 広報、各回の内容について、申込状況、受講者の傾向、グループワークの進め方について意見交換を行った。 |
| 1月24日 | 浜松学院大学 会議室 | 緩利誠、米勢治子、松本一子、菰田康子、山口権治、 | 1. 事業企画の報告<br>2. 報告書について<br>3. 今後の展望 | 参加者の傾向、各講座の内容と感想、講座の成果、会計報告。<br>報告書の配布対象、今後の高校支援の可能 |

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| | | 小林芽里 | | 性、事業について。 |

【写真】なし

3 養成講座の内容について

（1） 養成講座名　外国人高校生の学習・進学支援のための人材養成

（2） 養成講座の目標

外国人の子どもたち、特に高校生にはどのようなサポートが必要なのか、進路や学習への動機づけはどのようにしたらよいのか、静岡県、愛知県、神奈川県における実践事例に学び、学校と地域の連携も含めて、日本語・学習支援を実践するための人材のネットワークづくりをはかる。

（3） 受講者の総数　55　人

（出身・国籍別内訳　ブラジル　7 人，中国　1 人，台湾　1 人、日本　46 人）

（4） 講義時間数（回数）　24　時間　（全　8　回）

（5） 参加対象者の要件　学校・教育関係者、これから外国人支援に関わりたい方

（6） 受講者の募集方法

大学ホームページ、各種メーリングリスト、静岡県と浜松市の国際交流協会のニュースレターへの掲載

浜松学院大学の日本語教員養成プログラム、外国人支援リーダー養成プログラムの受講生、修了生への DM、静岡県西部の中学校、高校への DM

（7） 研修会場

（8） 使用した教材・リソース

それぞれの講師が用意した資料

（9） 講座内容

| 日時 | 講座名／学習内容 | 講師 | 受講者数 |
|---|---|---|---|
| 9 月 6 日<br>18:00～21:00 | ・外国人の子どもの状況<br>・進学ガイダンスと高校生プロジェクト | 松本一子（愛知淑徳大学、愛知教育大学　非常勤講師）<br>小林芽里（浜松学院大学　外国人支援リーダー養成プログラム推進員） | 31 人 |
| 9 月 13 日<br>18:00～21:00 | ・小中学校における学習、進学支援 | 鈴木亜希子（掛川市教育員会外国人児童生徒支援員） | 37 人 |
| 9 月 27 日<br>18:00～21:00 | ・中学校の実践～学習の動機づけになる外国人生徒向け生き方学習 | 水島洋子（浜松市立江南中学校教員） | 35 人 |
| 10 月 18 日<br>18:00～21:00 | ・静岡県における高校の外国人生徒への取り組み | 山下宗茂（静岡県立浜松大平台高校校長） | 24 人 |
| 10 月 25 日<br>14:00～17:00 | ・愛知県における高校の外国人生徒への取り組み | 松本一子（愛知淑徳大学、愛知教育大学　非常勤講師） | 26 人 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 11 月 27 日<br>14:00～17:00 | ・中学・高校生の日本語支援と母語 | 樋口万喜子（神奈川県立高校教員、NPO 中学・高校生の日本語支援を考える会代表） | 18 人 |
| 12 月 11 日<br>18:00～21:00 | ・神奈川県における高校の学習支援とネットワーク構築 | 高橋清樹（神奈川県立高校教員、多文化共生ネットワークかながわ 事務局） | 26 人 |
| 12 月 20 日<br>18:00～21:00 | ・当事者の声<br>・高校生の支援を進めるために | 村上ナオキ、ディマス・プラディ（浜松学院大学 1 年生）<br>緩利誠（浜松学院大学講師） | 28 人 |

（10）講座の評価

① 受講生に対するアンケート

＜第 1 回＞

- 長年、外国人中学生の日本語指導に関わっているので、彼らの高校進学や進学後の授業サポート体制を興味深く聞きました。松本先生のたくさんの資料はとても役立ちそうで、今後の指導に活用させていただきます。
- 各国の特徴は、その国の人と接する上で貴重な事前知識だと思います。このように多くの受講生の方々とつながることで、支援者のネットワークの構築にもなりますね。
- 浜松での学習支援の概要のみならず、高校ガイダンスに関する全国的な資料・紹介もあり、有意義でした。
- これから外国人支援に関わろうと考えている方にとってとても分かりやすい内容だった。外国籍の家族がなぜ、何の目的で日本に滞在しているのか、その子供達の就学の状況はどのようなのかなど、わかりやすく話をしてくださり、その一端が理解できた。
- 実際に現場で感じることと、講座の中での話が重複し、納得出来ることがたくさんあった。今回の話を少しでも参考にして活かして行きたい。
- 外国人の子どもたちへの支援は、日本人の子どもたちのためにもなると考えています。
- 外国人児童生徒を取りまく制度や環境、課題等、分かりやすく解説していただきました。市教委は主として義務教育年齢の子どもたちへの支援を行っていますが、高校生の支援を考える中で、自分たちが行っている事業や支援を改めて考え直す機会にしたい。様々な支援者、団体、行政 etc. の横断的な連携は本当に必要だと感じました。
- 外国人児童の実態がよく分かり大変参考になりました。現状を知り基本的なことを知る機会があまりないので、数値的にもよく分かり、大変参考になりました。
- レジュメにたくさんの HP アドレスの紹介があって、情報を得る手段が増えました。様々な取組みの外枠も知り、交流を広げることもできて、何よりの収穫となりました。1人の子どもにたくさんの人が接していることを知りました。私は1人の子どもの一面しか見ていないので、情報をいただけることもものすごく助かります。
- 現在、通訳の仕事に加え、民生委員という立場になり、区域に住む多文化の方たちの援助に役立てたいと思いました。友人の子供たちの援助にも役立てたいと思います。

＜第 2 回＞

- グループディスカッションで事例のシミュレーションが出来た。他の人と話して、制度なども新たに知る事ができたのが良かった。講師の方が現場で体験をした実例を開き、同じ様な状況に直面した時に反応しやすくなると思いました。
- 支援員の活動範囲はとてつもなく広いものだということを改めて理解した。
- 事例をグループワークで取り組んだのでいろいろな視点を知ることができ、また自分の意見も伝えることができたので、楽しくできた。
- 具体的体験に裏打ちされた話で参考になった。事例研究もメンバー全員がよく発言し、深く考えお互いに意識を高めることができた。体験、経験は貴いものだと思った。
- 外国人児童生徒支援の問題点を的確について話され、改めて、現在の自分の活動を振り返りました。私は小学生支援がほとんどですが、中学生支援は難しいのですね…。
- 思春期の子供達にどのような対応をしてあげられるのか、寄り添ってあげることの大切さを認識しました。サポートする側の寛容さや知識の豊富さが求められると思いました。誠実に対応してあげる支援員一人ひとりが力を持っていることが必要ですね。
- 具体的な話が多く、非常に参考になりました。支援員の視点は、外部にいると知る機会もないので貴重な機会になりました。グループワークの時間をもっと欲しかった。
- 1)役立つ情報を与え、親・本人に安心感をもたせる　2)よりそう支援、親のような親身な支援、友達の存在　3)学習支援。この 3 つが心に残りました。気持ちを聞く、声を掛けること、存在を大切にするということだと思いました。
- 具体的な事例について話し合うことで、支援のあり方について考えることができた。情報提供の方法も、それぞれの親子に合った形で行っていく必要性を感じました。
- 事例から見ることで、社会資源がどのくらい存在しているのか、自分の情報量の少なさ、それを整理、一元化していくことが、大切だと実感しました。

＜第 3 回＞

- 日本語学習教室としてではなく、「生き方学習プログラム」を作成した意味は大きい。様々な活動を通して、必然的に日本語を使用する状況に子どもたちを追い込むアクティビティは有意義であるし、効果が大きいと思う。高校でも使える教材かもしれない。
- 中学校での具体的な実践を聞き、子どもたちの主体的な学びの姿がイメージできた。日本語もですが、子どもが必要感を感じて初めて“自ら学ぶ”姿勢が育っていくと思う。浜松のどこの学校でも、子どもたちが、学ぶ意識を高めていけたらいいなと思う。
- 班分け(学校教員、NPO 関係、支援員、地域…)それぞれの特徴が出てとても面白かった。それぞれ、手に届きそうな取り組みではないでしょうか。
- 生徒に現実を見つめさせ、将来への展望をひらくように指導することの難しさもよくわかった。国際化していく社会で、このようなことを深めていく必要性を痛感。
- 小学生とちがって自我も大きくなっている中学生の気持ちをそらさず、授業に興味を持たせる工夫がいろいろあって参考になりました。
- 本校(定時制高校)には遠州浜に住む外国籍生徒が多く、中学校での対応を勉強でき、有意義だった。本校の日本人グループと外国籍の生徒のグループは仲間意識が薄く、交流のな

い学校生活であり、参考にしたい。

- 子供たちは日本社会の情報量が少ないことがよくわかった。大人たちも外国人同志でコミュニティを形成して、閉鎖的になっていることが問題だと感じた。日本人と外国人がもっと関わることが大切であり、そのしくみづくりに取り組まないといけない。
- グループワークを通じ、現在の課題と解決策を話し合って、まず、やれることはやって行きたいという気持ちがわいて来た。

＜第４回＞

- 私は授業を組み立てる時、わかるレベルに合わせていることが多く、日本人も外国人も意欲をひき出し、高めるには、どうしたらよいか日々迷っています。しかし、少しでも具体策を考え、はたらきかけていきたいと思った。
- 外国人生徒も高学力、低学力、能力が高い子、そうでない子などいろいろあり、日本語能力だけで高校で学ぶ力を判定することも難しいのかもしれない。移民の多い国のシステムはどうなっているのだろうか。
- 静岡県は種々の受験生に対して配慮をしているが、受け入れ後の支援ができていないこと等々、今後の外国人高校生の問題点がよくわかった。矛盾も沢山ありますが、定時制高校が外国人生徒にとって充実した学び舎になればよいと思います。
- 定時制のクラスの中で、外国人の生徒数が多い場合の気をつける点（デメリット）がたくさんあることを知りました。これから日本で生きていく子どもたちを小学校段階で、できるだけしっかりと学力を身に付けさせたいと、強く感じました。
- 県や学校によって生徒への対応の姿がかなり異なり、情報を広く収集し、より客観的に見なければいけないと知りました。県と県、学校と学校を超えた取り組みも必要であることも改めて思いました。成功体験を交流していくことも必要だと思いました。
- 外国人特別枠で、入学後には本人の努力で学習をしていくしかない現状を、もっと知らせたい。部活や外国人生徒の多さだけで進学希望をしている生徒に、この学校には最低限どの位の学力が必要かを、通訳も介して家庭にも知らせるべきだと思います。
- どうしても日本語に焦点が当てられがちですが、高校生という年から考えて、自分はこれからどうするのか、たとえ親が帰っても自分は日本で生きていくのか、いずれ出身国へ帰るのか、長い目で見た将来のビジョンを持たせる教育や、自分は何者（人）なのか、というアイデンティティ教育も必要だと思います。
- 義務教育年齢の子どもたちへの支援を担当しているので、高校進学のためにも、高校がどのような子を受け入れたいかを適確にお答えいただき、大変参考になりました。
- 小・中学校と違って、ある程度の学力が必要である高校の現状を理解することができた。定時制高校の変質が印象的でしたが、見方を変えれば、多様な生徒がいるという生徒同士の学びの場とも考えられるのではないかと思いました。（現場の先生方はとてもご苦労されていると思いますが･･･。）
- 静岡県高等学校教育の実状が統計上把握できたことで、外国人生徒の状況への理解が深まった。定時制に通う生徒同士の集団力学の変遷は興味深く、外国人生徒指導の参考になる。

＜第 5 回＞

- 高校生ともなると、自分の将来のビジョンが描けないと不安になる子が多いと思う。具体的な職業の話やロールモデルとなる先輩の DVD は、キャリア教育にとても役立つ。小、中では親の都合で学校をかわったり、日本とブラジルを行き来している子が多いが、高校生には自分の将来を自分で決める力をつける教育が必要だと思う。
- 小、中の基礎的学力の定着の大切さを改めて認識した。ビデオを見て、ロールモデルを示すことがとても効果的だと思った。実際の人物がくれば、やはり子どもたちが目標とし、あの人のようになりたいと強く感じると思います。
- 愛知、三県の取り組み、豊橋市の進路ガイダンスのこと、具体的に知ることができた。浜松 NPO ネットワークセンターが行っているガイダンスをこの 4 年間見る機会がありましたが、他地域の取り組みも見聞きすることが必要だと感じました。
- 「子どもたちが考えるチャンスをつくる」とても、大切なことだと思います。学校をやめたら、どうするか？具体的な例で話をする。私自身、目の前にある問題に立ち向かうためのヒントをもらえました。
- グループワークで、高校教員、不就学支援、成人の日本語支援といった、自分とは違う分野の方々と話し合えた。行政に何をしてもらいたいかではなく、「自分達ができることは何か」というグループ発表もそれぞれのアイデアがとても参考になった。
- 今日の発表は、自分の問題でもあったので、とても意義あるものでした。課題を皆に検討してもらえた。1.孤立させない、2.おせっかいをやく、ここまでやりたいものだ。
- 外国人生徒のかかえる問題をとり上げ、話合う中で、必ずしも外国人だけがかかえる問題ではないということが浮き彫りになってきたように思います。生き方指導、キャリアデザイン、ライフプラン、いろいろな言葉がありますが、子どもたちに考える機会を数多く与えていくことの大切さと痛感しました。
- 豊田市で実施されている小学生向けの進学ガイダンスは大変有効なものではないかと感じた。浜松でもやれないだろうか。グループワークは現実にある問題を整理するのにとても役立った。支援活動に具体的に参考になることが多くあり、収穫大でした。

＜第 6 回＞

- 外国人の子どもを教えているにあたって、大人とはちがう母語がとても必要だということや、授業に NHK 番組を使う等、興味深かったです。
- 今後の指導に生かしたい。小・中学生の間に日本語力、学力、思考力を身につけさせるにはと日々思い悩んでいます。先生の明るい声・考え方に力を頂き頑張ります。
- 豊橋市にも中学を卒業した子供達が高校に行けなくて困っている人がたくさんいます。このような高校が豊橋にもあれば助かるのにと思いました。
- ワークショップではリライトをやり、少しずつリライト教材をふやしていきたいと感じました。これを機会に、中学年あたりのリライトに挑戦していきたいと思いました。
- 「書きかえる」「言いかえる」ということをこの頃とても考えているのですが、「書きかえてはいけないこと」をえらぶのが大変だなと思います。各技能をバランスよくきたえるために何をすればいいのか、日々の実践からのお話は大変参考になりました。

- 学習意欲のある子ども達に教えることは、さまざまな工夫が活かされて効果も大きいが、意欲のない子どもに教える時には、さらに工夫として興味を持たせないとすぐに飽きてしまう。教材を考えることと教えることを、改めて考えさせられました。
- 国語のリライトと理科の説明と、ワークショップを2つもできて楽しかった。教科支援の理科は難しいですが、これを機会に新たな日本語の支援ができそうです。

＜第 7 回＞

- 神奈川県での状況を初めてうかがいました。先進例があることは心強く思いました。静岡県、浜松市でもよい点を学び、継続して実施していって欲しいと思います。
- 地域の支援団体、学校現場、行政との連携の強固がより体制を構築していくかの鍵になると実感！特に行政との協働の部分で、協定を結んでお互いの役割を明確に、行政に働きかけて変革していく。静岡・浜松においても実行可能な希望を見出だせる数々の情報でした。高校進学後の支援も、浜松で普及していくよう努力していきたいです。
- 学校全体で支援する体制づくりについて参考になりました。就学前―小―中―高の連携について考えるきっかけになりました。
- 浜松と神奈川県との違いがよく理解できた。プレスクールのこと、学習支援や日本語支援をしている自分の授業と対比しながら、今後につなげたい。
- 「自立支援」という言葉が最後に出ましたが、この視点が全部の活動の中に必要だと思いました。私は以前から母語をやせさせないための活動が大切だと考えているので母語で学べる環境づくりをすすめるために、継続して考えていきたいと思いました。
- 行政と同じで学校もタテ割になっている部分が多いのではないかと感じています。「連携」の前に閉鎖的な学校の環境を変えないといけないと思います。同化ではない「共生」社会をつくっていこうという意識が、まだまだ不足していると感じます。
- 全日制高校でのサポートがよく解りました。学習意欲のある生徒に対して、適切なサポートに時間をかければ大きな伸びが期待できる事例をたくさんあげていただき、静岡県でももっと対応していかなくてはいけないと感じました。
- 青陵高校での取り出し授業の多さにびっくりした。専任の先生が指導にあたっていることが、生徒達によい影響を与えていると思う。

＜第 8 回＞

- 大変真面目に生きようとしている 2 人の大学一年生の話は、日本人学生の手本にもなると、感動しました。心から応援したい気持ちになりました。緩利先生の話は現在の大学の質にもかかわる大切な内容で、今後の日本の行く道を同時に思わざるを得ません。勉強する学生が増えてほしいと切に思いました。大変知りたかった内容です。
- 2 人の学生は厳しい環境を克服する中で身についたものは、むしろ日本人の学生にはない強みになっていると思いました。
- 私も高校入試前に学力をつけたいと願います。一般入試を受けられる生徒を育てたい。
- 2 人の頑張って来た学生の体験に基づいたお話とても良かったです。励まされました。彼らがまた次の世代につながっていくのだと思いました。緩利先生の現在の大学の様子、外国人の

学生が学院大でリーダー的になっていること、とても印象に残りました。

- 大学に入れば、或は卒業すればよいというものではないということが分かりました。外国人の子どもたちの進路の指導をどうしていくのがよいのか、考えさせられました。
- 外国人の子ども、やる気のある子どもとそうでない子どもの2極化しているのではと思った。やる気のある子は何とか助けてあげたい。
- 最近の大学入試の仕組はややこしいと毛嫌いしてなかなか覚えなかったのですが、わかりやすかったです。現状を良しとしている大学や社会にも課題があると思いました。
- これまでの県外の取り組み等も大変勉強になりましたが、支援のバランス、線引き･･･悩みも増えました。(笑)
- 高等教育の実態をわかりやすくお話してくださり、何が問題なのか形がはっきりした気がします。日本の子どもたちも含め、学ぶおもしろさ、知ることによる自己成長を実感できる学びを体験させないと、今後の社会は暗いものになると思います。

＜全体を通しての感想＞

- 参加している人たちが、それぞれの方面で外国人教育に携わっている方々なので、話をすることが意味があることだと毎回、感じ、様々な意見が参考になりました。
- 今までは外国人生徒のことで困った時、どこに相談したらいいか分からなかったが、何回かこちらに通ううちにいろいろな方がいることが分かった。人脈が広がった。
- 外国籍の子ども達の状況・問題点をあらゆる観点から話をしていただき、理解が深まりました。
- グループディスカッションで、議論が議論になりませんでした。考え方がいろいろあって、まとまるところがちっとも見つけられませんでした。難しいです。
- 外国人のかかえている問題などがよくわかった。今後どの様な形でその子たちを支援してあげられるかを考えたいと思います。
- 前半の講義、後半のグループワークのバランスがよい、飽きない。講義で深めた知識を考え、広めるグループワークはとても楽しかった。
- お休み時のプリントなども気にかけていただき、手厚いフォローをすることは受講生のモチベーションを高めます。私も自分の生徒がお休みしたときこそ、「気にかける」フォローをしてゆきたいと思います。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- 予定は 20 人定員だったが、全 8 回で 55 名の参加があり、5 回以上出席された方も 23 名と、予想をはるかに超えた参加者数となり、関心の高さを伺わせた。
- 参加者も現役教員（小学校、高校）、退職教員、支援員、日本語教師・ボランティア、学習支援組織や NPO スタッフに教育委員会まで多種多様だった。
- 講座は講義とグループワークの組み合わせで、課題や支援事例を多様な参加者と共有し、実践につながる議論ができたことがよかった。
- 休憩時間を長めに取り、グループワークも毎回組み合わせが変わるように配慮したことで、参加者同士のつながりが深まり、支援のネットワークが構築できた。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- 受講修了者のメーリングリストを立ち上げ、情報提供等の活動のサポートを行う。また、高校生支援と浜松学院大学の外国人学生を中心にした学生支援を、調査・研究も兼ねて NPO 等と協働しながらやっていくことを考えている。

（11）事業の成果

① 他事業との連携

- 10 月 3 日に開催された（特）浜松 NPO ネットワークセンター主催の「高校進学ガイダンス」に受講者が参加した。
- （特）浜松 NPO ネットワークセンター主催の「外国人高校・大学生の映像制作 WS」に受講修了者が参加した。
- 浜松学院大学による浜松北高定時制の外国人生徒支援事業の「先輩と語る会」に受講修了者が参加した。
- 学習支援組織で活動する受講者から、高校進学、大学進学の相談を受け、情報提供を行った。
- 通信制高校のサポート組織「若葉学習会」と連携の可能性を検討中。

② 研修後の人材活用

- 既に学校や、学習支援組織、日本語教師など現場にいる受講者も多いので、受講修了者のメーリングリストを立ち上げ、高校生の学習・進学支援の実践につながる情報提供等の活動のサポートを行う。
- 浜松北高定時制、浜松大平台高校の外国人生徒支援事業に受講修了者を活用したい。

（12）今後の課題

実施期間中に支援組織なり支援事業を立ち上げたかったが、すでに教育機関や活動組織に属している人が多く、そこまで至らなかった。通信制高校のサポート組織との連携も検討中であり、今後の活動につなげていきたい。

報告書（講座録）は支援のマニュアル、指針としても活用できることを念頭に編集した。外国人高校生の支援は全国的な課題でもあり、静岡県の集住地区の中学校、高校ほか、各地の支援者にも配布、共有していきたい。